

啓発事業等報告書

啓発事業等 小平市内における小中学校の“お薬教育”

啓発事業等実施報告者 小平市薬剤師会 会長 馬場孝道

理事 福田早苗

要旨

1. 啓発事業等実施目的

セルフメディケーションが推進される時代を迎え、一般消費者の医薬品適正使用に対する認識を深めること、OTC 医薬品の販売制度の改正されたこと、さらに中学校における学習指導要領の保健体育に『医薬品は正しく使用すること』の一文が盛り込まれたことなどにより、“薬”に対する正しい理解を啓発する『お薬教育』の必要性はますます高まっている。小平市薬剤師会と小平市学校薬剤師会は、医薬品の適正使用に関する基礎知識の定着、および薬剤師の職能啓発を目指して小中学校における『お薬教育』を推進し、低年齢時から医薬品の特異性およびその正しい使い方について段階的に繰り返し教育することを試み、市内の小中学校 19 校、中学校 8 校全校において、薬剤師が参加し、「薬の正しい使い方」などを主題とした授業の開催を目指した。

さらに、従来の小平市薬剤師会が主催し、学校関係者も参加する『お薬教育検討会』の充実に加え、多摩小平保健所の協力を得て同所管轄内の 5 市（清瀬市・西東京市・東久留米市・東村山市・小平市）の薬剤師会合同で『お薬教育』の啓発・講師養成を目的とした研修会を開催し、小平市近隣地域にも薬の正しい使い方を啓発する授業を行う活動意識を高め、『お薬教育』等の授業実施の拡大を試みた。

2. 啓発事業等実施方法および内容

2-1 小平市の小中学校における『薬の正しい使い方』などの教育活動の実施

学校側の要望（時間・形態・内容など）により、動画、実験、クイズを盛り込んだパワーポイントによるスライドを構成し、授業を行うものとする。主な授業内容は以下の通り。

- ① **薬の役割** — 薬は「体の自然治癒力をサポートするもの」と位置づけ、元の健康な状態以上にすることはできないことを理解する。
- ② **薬の旅** — 薬の摂取から吸収、排泄、及び血中濃度について学び、決して効いて欲しい部分にのみ薬が到達するわけではないことを理解する。
- ③ **薬の種類** — 色々な薬の工夫・剤型の特徴や使い分けについて理解する。
- ④ **薬の正しい使い方** — 「薬の正しい使い方」のルールの意味を簡単な実験やクイズを交えて理解する。
- ⑤ **副作用** — 薬の主作用と副作用について理解し、たとえ正しく気をつけて薬を使ったとしても副作用が発現する危険性があることや、副作用に気がついた時の対応について理解する。
- ⑥ **薬の開発** — 薬の開発には長い年月と莫大な費用がかかること、発売後も有効性や安全性の確認を行い、薬の安全を守るしくみができていることを理解する。（主に中学校）
- ⑥ **医療従事者の役割** — 医療の中で医師、薬剤師などの役割分担を理解し、それぞれの専門家の職能の活用法を理解する。（主に中学校）
- ⑦ **健康であるために（セルフメディケーションとは）** — 健康教育の一端を担うという目的から、「体の健康三原則」・「心の健康 5 カ条」を挙げ、体と心の健康を維持することの大切さを理解し、セルフメディケーションへの理解を促す。さらに中学校においては『お薬手帳』について取り上げ、安心してセルフメディケーションを行うための大切なツールであり、病院へ行くときのみならず、OTC 薬・サプリメントを購入する際にも活用すべきものだと意識づける。

また、有名人の薬物乱用事件の続発、大学生間の大麻使用の蔓延などの時代背景をうけ、学校側より薬物や、アルコール・たばこに関する内容の要望が寄せられた場合は、それについても対応した。

このような授業終了後、『薬の正しい使い方』授業に対するアンケート調査を行い理解度・満足度・質

問などを集計した。

さらに今年度より実施された、薬学部6年制による5年時の薬局実務実習を行っている学生にも授業への参加・見学を通し、このような活動の必要性を実感してもらうための啓発活動として小平市での『お薬教育』実施予定の日程表を東京都薬剤師会西武支部の各市（清瀬市・西東京市・東久留米市・東村山市）の薬剤師会にも公表し、『お薬授業』などの学校教育活動への参加・見学を呼びかけた。

2-2 授業後のアフターサポート

薬の正しい使い方を啓発するための冊子や、これまでの2-1でのアンケート集計の蓄積により抽出された質問事項を基に作成した『Q&A集』の作成、及び配布。

2-3 薬剤師が行う“薬”に関する教育活動の啓発普及活動

学校長会・養護教諭部会などに参加し、授業実施の拡大を図る。『薬の正しい使い方』授業を啓発するとともに、理解・協力を求める。

2-4 『お薬手帳』の啓発普及活動

“お薬教育”を通し『お薬手帳』の使用目的を理解してもらうための啓発普及活動を中学校中心に行なう。

さらに、すぐ実生活での活用につなげるため小平市薬剤師会オリジナル『お薬手帳』を配布。

2-5 『お薬教育検討会』の実施

児童・生徒の発達段階に合わせた授業内容・教材の検討、作成を行う。同時に、各小中学校で講師として授業を行う薬剤師の人材を育成する。

2-6 『お薬教育検討会《拡大版》』の実施。

多摩小平保健所の協力のもと、同所管轄内での『お薬教育』の拡大と定着・講師養成を目的とした研修会を5市薬剤師会合同で開催する。

3. 啓発事業等成果

3-1 小平市の小中学校における『薬の正しい使い方』などの教育活動の実施

平成14年度に1校の小学校から始まった小平市の“お薬教育”は、平成22年度19校ある小学校全校で、また、中学校では学校ごとの教育方針に沿った関わり方で8校全校において薬剤師が教育活動に参加することができた。[【資料1】【資料2】参照]

『薬の正しい使い方』の授業を行った小学校19校中18校分と、中学校8校分中5校分の授業後アンケート調査を行い集計した。[【資料3】参照]

3-2 授業後のアフターサポート

授業内容の確認と復習、さらに家庭でのコミュニケーションツールとして日本OTC医薬品協会発行の『セルフメディケーションハンドブック』を受講した児童生徒全員に配布。さらにこれまでに3-1で行った授業後アンケートにより、集計された質問事項を基に小平市薬剤師会で作成した『薬の正しい使い方授業Q&A集』を受講した中学生全員に、また『薬の正しい使い方（漫画版）』を受講した小学生全員に配布した。これにより一段と授業を印象づけ、知識の確認とその定着を図った。

3-3 薬剤師が行う“薬”に関する教育活動の啓発普及活動

様々な機会、媒体を使って薬剤師が行う“薬”に関する教育活動の啓発普及活動に努めた。また、このような活動に関心を持ったメディアの取材を受けたり、記事の掲載の依頼をいただいたりすることも多くなったが、活動の拡大のための一助になればと考え、出来る範囲で対応した。

小平市学校長・副校長合同会議（5月10日） 出席者：馬場・福田

対象：市内の小・中学校長、副学校長、市教育委員会、その他市職員

中央区保健主任研修（6月1日）

演題：「幼稚園・学校における“お薬教育”のすすめ」－病気の予防と医薬品の有効利用について－

演者：福田 早苗

対象：中央区幼稚園・小中学校保健主任担当者

西武支部薬局実務実習集合研修会 《3回》

演題：「学校薬剤師のお仕事」

演者：福田早苗（6月10日）・上原健嗣（9月30日）・大原美夏（2月24日）

対象：西武支部エリアで薬局実務実習中の薬学生

日本薬剤師会学術大会（10月10・11日）

ポスター発表：小平市「お薬教育」を支える「お薬教育検討会」

～市内小中学校のお薬教育実施率100%を目指して～

演者：福田早苗、協同発表者：宮寄貴代・古屋しう子・馬場孝道・加藤哲太

対象：日本薬剤師会会員

記事の掲載・報道関連（参考資料として掲載記事別途添付）

・少年写真新聞 小学図書館ニュース（5月8日号）

お仕事シリーズ⑦ 『薬の専門家 薬剤師』

— 薬の知識を生かして、さまざまな職場で働いています —

・RAD-AR News（レーダーニュース）

Series No.91 July.2010 vol.21 No.2（くすりの適正使用協議会）

【くすり教育の実態 vol.2】— 薬が正しく使われる社会を目指して — : 福田早苗

・東京新聞（11月12日付）

『お薬教育』必修化へ — 再来年度から中高で順次開始 —

“子どものうちから正しい理解を”

取材協力：小平第十小学校

・ヒューマンサイエンス『薬の疑問を解決』（テレビ朝日）（11月21日）

小平市の“お薬授業”の様子が放映

取材協力：小平第五小学校

・都薬雑誌 Vol.33 No.2（2011）

小平市の『お薬教育』のあゆみ

— 多くのバリアを乗り越え、市内小中学校実施率95%突破！—

: 福田早苗

資料・教材提供

厚生労働省 医薬食品局 総務課 医薬品副作用被害対策室

“薬害を学び再発を防止するための教育に関する検討会”

東村山市学校薬剤師会

東久留米市学校薬剤師会

東村山市化成小学校

筑紫市薬剤師会

3-4 『お薬手帳』の啓発普及活動

授業を受けた全中学生に小平市薬剤師会オリジナル“お薬手帳”を配布。また、小平市薬剤師会会員薬局においても小平市薬剤師会版の“お薬手帳”を採用したいとの声が多いことを受け、OTC医薬品やサプリメント購入時や、使用時にもお薬手帳を活用することを促すページを追加した教材用お薬手帳を改めて作成し、来年度の中学生の授業時に利用することとした。【資料4】に追加ページを添付

3-5 『お薬教育検討会』の実施

年三回の定期開催が定着し、この活動に賛同してくださる教育委員会教育長、学校長、養護教諭をはじめとする学校関係者の参加も定着しつつあり、それぞれの専門的な見地より様々な意見・提案をいただける貴重な場となった。【資料5】

5月20日 お薬教育検討会（参加者：28名） 小平市東部市民センター

11月11日 お薬教育検討会（参加者：32名） 小平市東部市民センター

2月17日 お薬教育検討会（参加者：35名） 小平市東部市民センター

3-6 『お薬教育検討会《拡大版》』の実施。

平成21年度に引き続き、2回目となった今回は多摩小平保健所管轄内の五市に加え、武蔵村山市、渋谷区からの参加希望者もあり、小平市以外の地域からの参加者が前年度の12名から26名と倍以上に増加した。また、各参加者からの発言より、お薬教育に関する意識の高まりが感じられ、活動そのものも活発になって来ていることがわかった。小平の活動状況が多少なりとも刺激となり、各エリアでの活動が活発な物にさせることができたのではないかと考える。【資料6】

4. 考察およびまとめ

一般消費者が自らセルフメディケーションを行うには、その中心的役割を担う医薬品に対する基本的な知識と適確な判断力が必要となる。教育とは知識を教えるだけでなく、その知識に基づいて正しく判断し、正しく行動できるようにサポートすることだと考える。このような考えに基づき薬剤師会主導で運営している『お薬教育検討会』の充実と、小平市薬剤師会、小平市学校薬剤師会のこれまでの活動の積み重ねにより、小平市の“お薬教育”をはじめとする健康教育活動において、薬剤師は必要不可欠の存在と印象づけられた。実際に、教育現場において“お薬教育”そのものがかなり浸透してきており学校の年間指導計画を立てる際に組み込まれ、日程調整が行われるようになってきている。さらにこの取り組みを保護者にも認識していただけるようにとの学校側の配慮から、年に3回ある学校公開週間に導入されることも多くなり、児童生徒のみならず、より現在の一般消費者である保護者に対し、このような形で薬剤師が啓発活動を行うことができるのは、大変貴重な機会であると考えます。

小平市においてはこのように薬剤師が行う“お薬授業”などの教育活動実施率が100%に達し、小学校・中学校と発達段階に応じて繰り返し教育できる環境が整った。そして他地域の薬剤師の方々に対しても小平市の活動のノウハウを提供し、薬剤師誰もが“お薬教育”に取り組みやすい環境を整えるために、各薬剤師会と連携をとっていく必要があると考え、平成21年度より多摩小平保健所の協力を得て同所管轄内の五市薬剤師会に呼び掛けて立ち上げた“五市合同お薬教育検討会”は、“お薬教育”に関する情報を共有し、関わる全ての人と同じ目的意識を持って活動を展開し、輪を広げることでよりいっそう活動の充実が図れるのではないかと期待する。

また、薬局実務実習に来ている薬学生に対しても、西武支部の集合研修の『学校薬剤師の仕事』の中でこのような教育活動について触れたところ、強い関心を示し、教育活動への参加意欲を感じることができた。実際に授業や検討会に参加した学生は一段と強く“お薬教育”の必要性や重要性を感じとることができ、薬局薬剤師の新たな可能性に夢や希望を託せたのではないだろうか。

授業後の児童生徒の反応や、アンケートの記述から“薬”や“薬の使用方法”に対するよい意味での興味・関心を持たせることができたと感じる。また、少数意見ながら、薬剤師の職能についての記述や、『将来は薬剤師になりたい』という記述も見受けられた。このようにせっかく高められた“薬”や“薬剤師”への認識を維持させるためには、繰り返しこのような授業を行うことに加え、学校において健康教育に直接携わる養護教諭をはじめとする学校長や、副校長・学校教職員とのよりいっそうの連携、協力が必要であると考えます。“お薬教育”実施率100%に達した後も、コミュニケーションを密にし、小中学校の教育現場に求められる“お薬教育”を目指し、たゆまぬ努力を続けるべきであると実感している。

このような薬剤師が義務教育の学校現場で行う“お薬教育”をはじめとする健康教育の継続と充実、医薬品の適正使用に関する知識の定着とともに、セルフメディケーションの時代を担うキーマンとしての薬剤師職能の認識向上への布石となるのではないかと期待している。

最後に、この啓発事業でもある『小平市の小中学校における“お薬教育”』に対し多大なるご協力をいただいております東京薬科大学の加藤教授に心より感謝いたします。

さらに、平成18年度～20年度の三年間、及び平成22年度、『一般用医薬品セルフメディケーション振興財団』の助成対象事業として認定していただき、ご支援をいただけたことも活動の幅を広げ、弾みをつける大きな要因となったことを申し添えるとともに、貴財団に対し深い感謝の意を表します。

【資料1】小平市内小中学校における『薬の正しい使い方』・『薬物乱用防止』等授業の実施

《 小学校 》

月 日	曜日	場 所	対 象	テーマ	講 師 (敬称略)
5月30日	日	小平第十五小学校	1～3年	セーフティ教室【薬・薬物】	福田
			保護者	薬物	
5月31日	月	小平第六小学校	5年生	セーフティ教室【薬・薬物】	一木
6月5日	土	花小金井小学校	6年生	薬	上原
6月11日	金	花小金井小学校	6年生	薬物	上原
10月25日	月	小平第四小学校	6年生	薬	望月・北山
10月27日	水	小平第五小学校	6年生	薬 *1	加藤・古屋
11月1日	月	小平第四小学校	5,6年生	セーフティ教室【薬物】	加藤・望月
11月2日	火	小平第三小学校	4年生	薬 *1	村主・古屋・福田
	火	小平第九小学校	6年生	薬物	小山
	水	小平第十小学校	4年生	薬～薬物	北山
11月3日	水	小平第三小学校	5年生	薬物	福田
11月4日	木	学園東小学校	4,5,6年	薬物	小林
			1,2,3年	薬	小林
11月6日	土	小平第十四小学校	1,2,3年	セーフティ教室【薬】	照沼
			保護者	薬	
12月2日	木	小平第九小学校	5年生	薬	小山
2月2日	水	小平第十四小学校	6年生	薬	照沼・北山
2月7日	月	鈴木小学校	4年生	薬	久保田
2月8日	火	小平第二小学校	6年生	薬	大原
		小平第八小学校	6年生	薬 *1	宮寄
		小平第十一小学校	6年生	薬	宮腰
			5年生	薬	宮腰
		小平第十五小学校	6年生	薬～薬物	佐藤
		鈴木小学校	5年生	薬物	上原
2月9日	水	小平第十三小学校	6年生	薬～薬物	織田
		小平第七小学校	6年生	薬	高杉
		学園東小学校	6年生	薬	小林
2月10日	木	小平第一小学校	5年生	薬	馬場(孝)
		上宿小学校	4年生	薬	三宅
2月11日	金	小平第三小学校	6年生	喫煙防止	加藤・福田・村主
2月15日	火	小平第七小学校	6年生	薬物 *1	加藤・高杉
2月17日	木	小平第六小学校	6年生	薬	一木
2月23日	水	小平第十二小学校	5年生	薬	辻

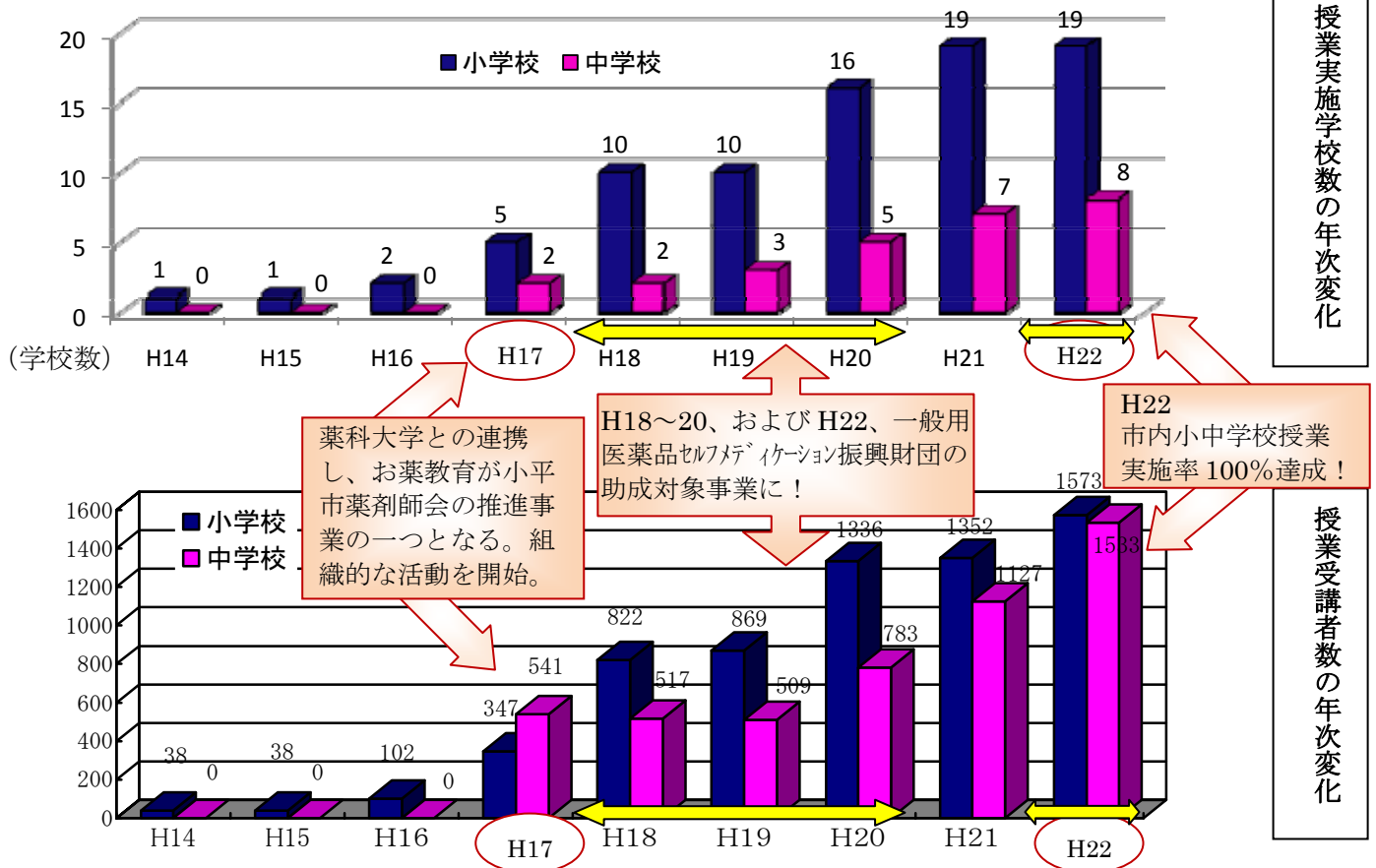
《 中学校 》

月 日	曜日	場 所	対 象	テーマ	講 師 (敬称略)
5月28日	金	小平第二中学校	全学年	セーフティ教室【薬物】	加藤・原口
			保護者		
			保護者	薬物	
6月24日	木	小平第四中学校	1年生	薬	大原・前田
7月20日	火	小平第四中学校	1,2,3年	薬物	福田・前田
9月17日	金	小平第三中学校	1年生	薬～薬物	加藤・繰生
11月5日	金	上水中学校	1年生	薬	瀬間
		小平第五中学校	1年生	薬剤師の職能について	馬場(典)
2月23日	水	小平第六中学校	1年生	薬	福田
3月8日	火	小平第一中学校	2年生女	救急箱の医薬品について	白井
3月10日	木	花小金井南中学校	3年生	薬	新井・瀬間
				薬物	福田・米澤
3月15日	火	小平第六中学校	2年生	喫煙防止	福田

*1: 薬局実務実習薬学生の参加および見学 (のべ人数: 33名)

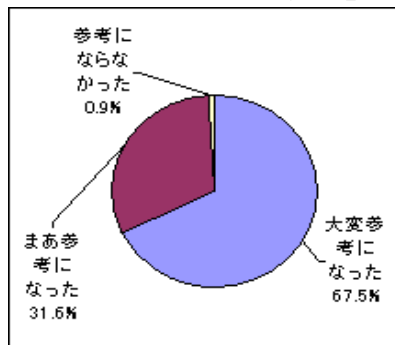
*2: 他地域の薬剤師会からの参加および見学 (のべ人数: 46名)

【資料2】小平市における『お薬教育』の実施状況の推移

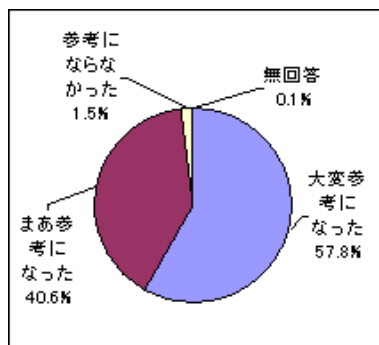


【資料3-①】

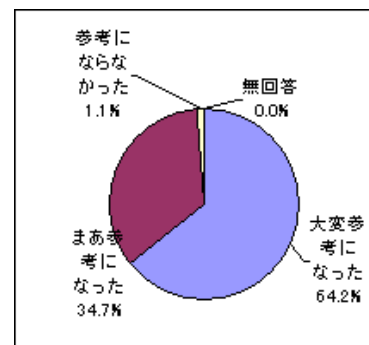
■ 今日の「くすりの授業」は参考になりましたか？



小学校合計(18校分)

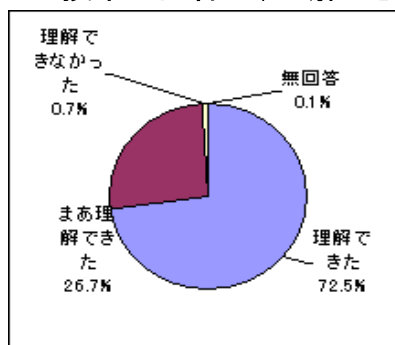


中学校合計(5校分)

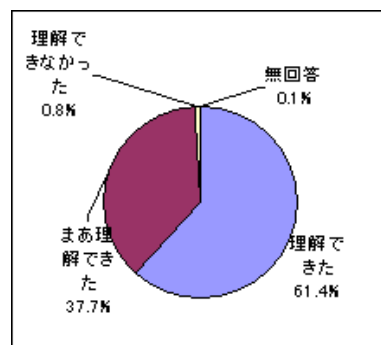


総合計

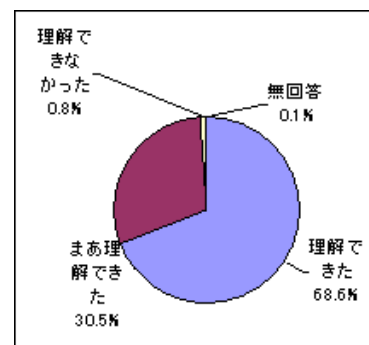
■ 授業の内容は、理解できましたか？



小学校合計(18校分)

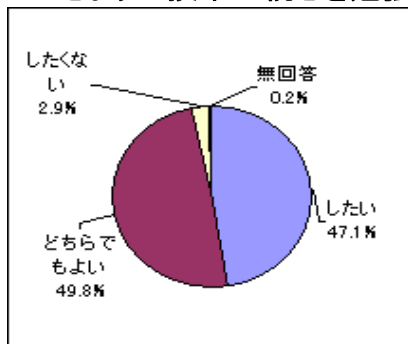


中学校合計(5校分)

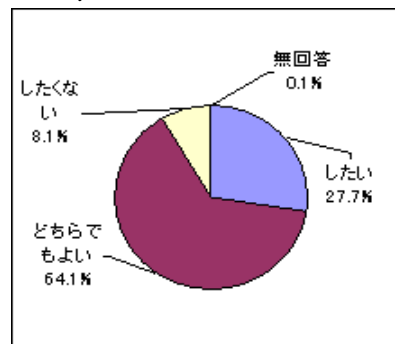


総合計

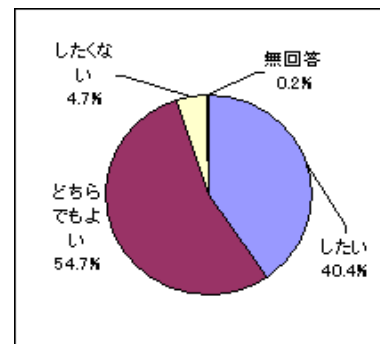
■ きょうの授業の続きを勉強したいですか？



小学校合計(18校分)



中学校合計(5校分)



総合計

【資料3-②】

I. きょうの勉強の内容で、いちばん心に残ったところは、どこですか？(Top 10)

《小学校》

- 水以外のもので薬を飲まない方がいい理由。(505)
- 実験各種。(お茶、カプセル、口中崩壊錠など)(292)
- コップ一杯の水・ぬるま湯で薬を飲む理由・大切さ。(269)
- カプセル・錠剤の構造、薬の工夫。(174)
- 薬の用法・用量を守る事の大切さ。(120)
- タバコ・薬物・薬物乱用について(68)
- 薬の正しい飲み方、使い方。(41)
- 薬のいろいろな種類について。薬の種類の多さ。(37)
- 錠剤をつぶしたり、
(カプセルをあけて飲んではいけない。)(29)
- 薬はあげたり、もらったりしてはいけない。(21)

《中学校》

- 水以外のもの薬を飲まない方がいい理由。 (103)
- タバコ・薬物・薬物乱用について。 (75)
- コップ一杯の水・ぬるま湯で薬を飲む理由。大切さ。 (69)
- 薬の正しい使い方、使用法。 (68)
- 薬の開発について。
(開発過程。長い年月と莫大な費用がかかること。) (62)
- 薬は使い方次第で毒にもなる。
(薬物乱用の危険性もある。) (37)
- 薬と飲食物との相性。 (33)
- 薬の副作用について。 (29)
- 薬の説明書はしっかり読まないといけない。 (28)
- 薬の用法・用量を守る事の大切さとその理由。 (25)

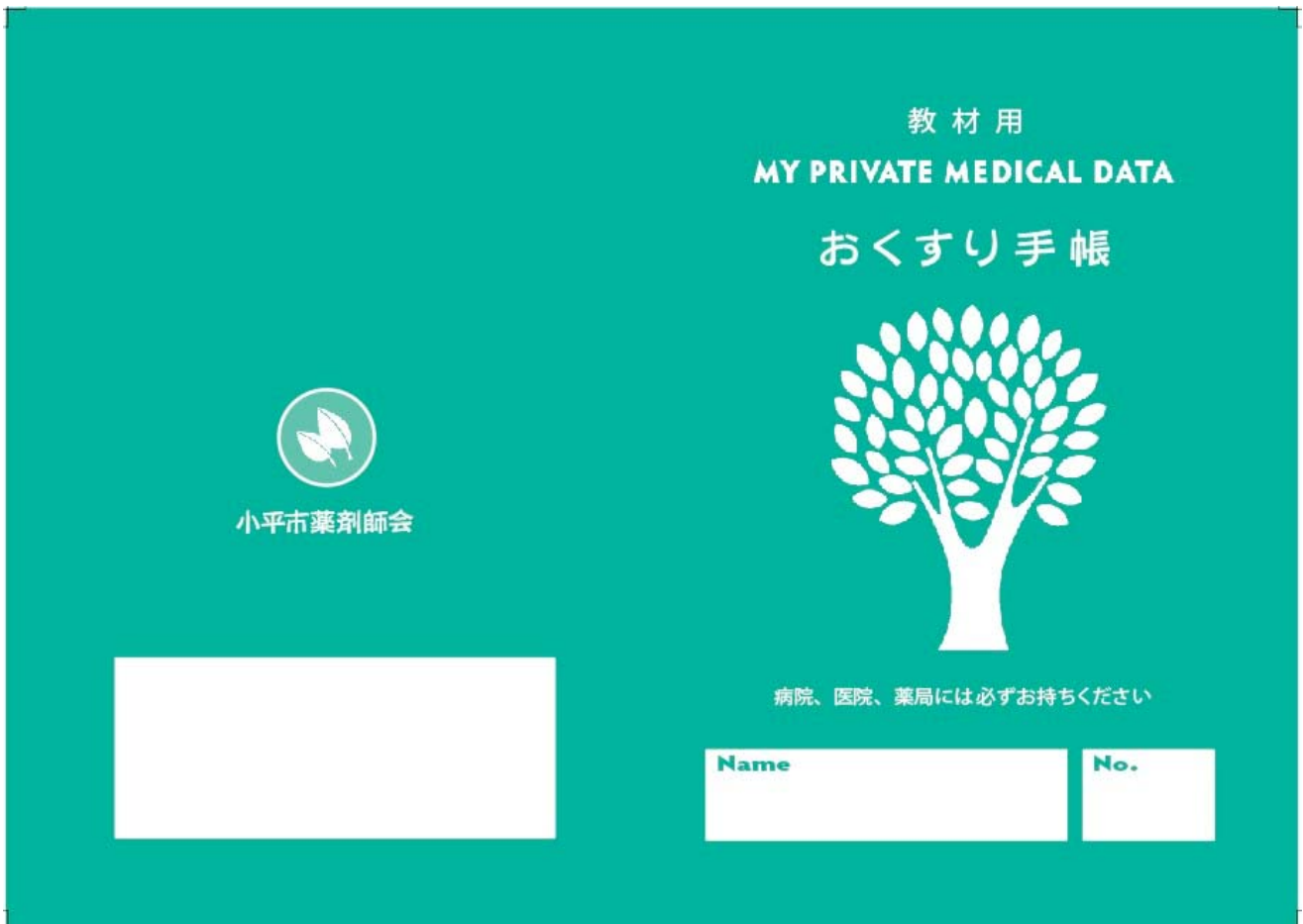
II. くすりのことで、もっと知りたいことがありますか。それは、どんなことですか？ (Top 10)

《小学校》

- 薬の種類はどれくらいあるか。 (222)
- 薬の作り方を知りたい。作っているところを見たい。 (112)
- カプセル・錠剤・粉薬・シロップ・注射などの
もっと詳しい製剤的な特徴・工夫。 (84)
- アルコール・タバコ・薬物・薬物乱用について。 (79)
- 薬の剤形の種類、使い分けについて。 (72)
- 薬の副作用について。 (70)
- 薬と飲食物との相性。(薬と飲み物の他の実験。) (56)
- 薬の成分、原料について。 (46)
- 薬の作用、効果、効き方をより詳しく。 (45)
- 各々の病気・症状に一番良く効く薬について。
(ガン・アレルギー・花粉症・インフルエンザなど) (43)

《中学校》

- タバコ・薬物・薬物乱用について。 (53)
- 薬の種類について。 (51)
- 薬の副作用について。(くすりのリスクについて) (29)
- 薬の効果や効き方について。 (24)
- 薬と薬の飲み合わせ。 (22)
- 薬の開発のことをより詳しく。 (22)
- 薬と飲食物との相互作用。 (21)
- 各々の病気・症状に一番良く効く薬について。
(ガン・アレルギー・花粉症・インフルエンザなど) (15)
- 薬を作っているところを見学したい。(動画を見たい。) (11)
- カプセルなどのより詳しい構造・工夫について。 (11)



OTC 医薬品購入時のポイント

OTC 医薬品は、いくつかの成分を含有した配合剤が多くを占めています。より症状に合った薬を購入するためには次のことに留意し、薬剤師などの専門家に相談しましょう。

③ 薬を購入する時に必ず伝えたいこと

症状

数ある薬の中から症状に合った薬を選ぶためにも副作用のリスクを下げるためにもくわしく伝えましょう。

・だれが ・どこが
 ・どのように ・いつから
 ・どのような状況で起こるのか など

使用している薬・サプリメントの有無

複数の薬を同時に使用する場合やサプリメントを併用する場合は、組み合わせによっては薬同士が影響しあい、本来の効果が出なかったり、逆に効果が強すぎて思わぬ副作用が出る危険もあります。

現在使用している薬があれば、OTC 医薬品も、医師、歯科医師から処方されている薬もすべて伝えましょう

アレルギー歴・副作用歴

食べ物やハウスダストなど、アレルギーのある人は、薬にも過敏な反応を示すことがあります。また、特定の成分で悪化することもあるため、注意が必要です。

アレルギーの有無や、過去に薬での副作用経験がある場合は必ず伝えましょう

27

妊婦中・授乳中

妊婦中は胎児や出産に影響が及ぶこともあり、授乳中も乳児への影響に注意が必要です。

妊婦中や授乳中の人は、必ずその旨を伝えましょう

年齢（家族が使用する場合）

***小児（15才未満）**

子どもは、体の各器官が成長途中で、薬の吸収や排泄処理能力も未成熟です。そのため、体重を基準にして大人用の薬を服用させることは非常に危険です。

未成年者は保護者と一緒に行き、年齢にあった薬を薬剤師などに相談して購入しましょう

***高齢者**

高齢者は、加齢による体の機能の低下から、思わぬ副作用が現れることがあります。何らかの慢性疾患を患っていることも多く、複数の薬を併用していることも少なくありません。

現在服用している薬は必ず伝え、用量などについても確認するようにしましょう

OTC 薬品ってなに？

薬院、ドラッグストアなどで購入できる医薬品のこと
 OTC とは Over The Counter の頭文字をとった言葉です

28

* 参加者状況

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	武蔵村山	その他	合計
参加者	10	1	8	3	7	5	9	43
アンケート回収枚数	6	1	8	3	7	5	2	32

1 本日の“お薬教育”検討会は参考になりましたか。

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	武蔵村山	その他	合計
参考になった	6	1	8	3	7	5	2	32
まあ参考になった	1	0	0	0	0	0	0	0
参考にならなかった	0	0	0	0	0	0	0	0

2 今後、合同“お薬教育”検討会に期待する内容は？(複数回答可)

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	武蔵村山	その他	合計
教材について	2	1	7	3	6	4	0	23
授業の進め方	2	1	8	1	7	4	1	24
導入へのアプローチ	1	0	5	0	5	1	0	12
マンパワーの確保	0	0	2	1	1	2	0	6
各地での取り組み	3	0	3	0	0	3	1	10
“お薬教育”の課題	2	0	6	1	2	2	0	13
その他	0	0	0	0	0	0	2	2

※その他:現場での生徒の声を知りたい・研修の受け入れのお願い

3. ご意見、ご感想などございましたらぜひお聞かせ下さい。

- 各市、各学校の活動内容を知り、自分の今後の仕事に是非生かしていきたいと思えます。
- 「薬物乱用防止」の動きが盛んになる中、「薬物乱用」について教える前に『お薬教育』で何が正しい使い方で、何が乱用につながるかということが先決だと感じていました。なかなか担当校から依頼をとりつけることができていませんが、これからも意志表示をし続けていきたいと思えます。
- 薬物乱用を教える時に絶対に教えたいことは、脳の素晴らしさ・人間の素晴らしさです。熱意を持って授業に取り組もうと思えます。
- 教材、授業の内容を教えて頂きたいです。機会があつたら授業を見学させて頂きたいです。
- 加藤先生の高等学校のことなど参考になりました。
- 学校全体(教員の方々)の薬・健康への取り組みを促せたら良いのかなと思いはじめました。
- 昨年と比べて、どこの市も活動が進んでいることに驚きました。
- 各市の様子がよく分かった。前回に比べ、さらに活発になったと感じた。
- 導入のアプローチ法が特に興味深く参考になりました。皆さんの活躍に感心いたしました。
- 今後の武蔵村山のお薬教育に対する学薬の方向を考えるのにとっても参考になりました。
- 薬剤師は横の連携が弱いです。補い合うためにこういう会はいいいですね。
- 保健指導をやるにあたってのヒントをたくさん得られました。これからの学校教育に向けて、どのように養護教諭が動いていったらいいのかということについて考えさせられました。
- 子供のアンケートの話などを聞いて、いつかお薬教育に係われることができたらいいと思えました。今後も見学や研修などの機会がありましたら、参加させていただけると嬉しいです。